

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 NPO法人ヤマガタヤポニカ

1. 事業名称

外国人ママへの子育て応援団

2. 事業の目的

地域で子育てする外国人ママパパの子育ての日本語教育に特化して支援する。具体的な目標として日本語教室において外国人ママパパが日本語による子育ての語彙を学び、地域で子育てする仲間作りを目指す。日本語教室の前段階として日本語学習を支援するサポーターを養成するための日本語サポーター養成講座を行う。

3. 事業内容の概要

この事業は山形県東根市教育委員会、子育て健康課、クリエイティブがしね、東根市さくらんぼ国際交流協会から後援を受け、東根市という一地域を拠点として展開した。(後援として公益財団法人山形県国際交流協会の支援も受けた。)

日本語教室を開講する前に日本語サポーター(以下サポーターと表記)を養成する講座を開いた。募集対象は教室を開講する山形県東根市近郊に住んでいる子育て中の日本人ママパパとしたが、それに限定はしなかった。養成講座では日本語教育の基本的な知識や日本人サポーターの役割、地域における外国人事情などを学習し、レベル別のおしゃべり教材3種類を準備し、それらテキストの実践的な使い方を学んだ。

日本語教室の学習者(外国人)は子連れが予想されたため、午前中 2 時間とし、託児付きとした。全 24 回実施し、1 回教室外学習(見学)を入れた。1 週間に 2 回(火、金)実施し、火曜日は文化庁カリキュラム案に則って当会が新しく作成したテキストを学習した。このテキストは外国人ママパパが地域の中で遭遇すると思われる場面での会話を内容としている。火曜日は当会員が指導するクラスレッスンとし、サポーターも参加し、クラスレッスンの指導を学んだ。

金曜日はサポーターと学習者がマンツーマンでおしゃべり型テキストを学習した。参加した外国人学習者は日本語でのコミュニケーションに問題がなかったこともあり、中級者レベルとして準備した当会制作の『子育て日本語』(2008)を使用した。このテキストで子どもとの会話を学習した。

サポーターも学習者も毎回記録を書き、それを集めてコピーし、原本は返却、会で配布したファイルに綴じもらった。コピーした記録は当会会員で回覧し、情報を共有して指導した。学習者は返却された学習記録を用い、サポーターと共に学習の振り返りをした。

サポーターは教室開講中の 3 ヶ月間に 2 回のフォローアップ養成講座を持った。フォローアップ講座では、自己の記録を元に、実践を通して明らかになった課題を確認し、互いにシェアし、解決法を考えた。そして、その後の教室活動に生かしていった。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

運営委員は後援を受けた東根市さくらんぼ国際交流協会の理事 2 名と当会の理事3名で構成した。(以下、場所の東根市さくらんぼタントクルセンターはタントクルと表記)

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成 24 年 7 月 12 日 16:00～17:00	1 時間	タントクル	青柳雄二、高橋京子、横沢由実、大竹美知子、古澤弘美	事業内容の検討	『日本語サポート応援団養成講座』『くらし&子育て日本語教室』文化庁カリキュラム案テキスト制作など実施要綱の検討と承認
2	平成 24 年 8 月 30 日 14:30～15:30	1 時間	タントクル	青柳雄二、高橋京子、横沢由実、大竹美知子	養成講座、テキスト制作、日本語教室学習者の募集	養成講座、テキスト制作の実施報告と日本語教室、フォローアップ講座の概要説明
3	平成 25 年 1 月 10 日 14:30～15:30	1 時間	タントクル	青柳雄二、高橋京子、横沢由実、大竹美知子、古澤弘美	事業報告	日本語教室の報告、日本語サポーター、外国人学習者の学習成果報告、見学報告、第 2 回インターナショナルクッキング参加の報告、今後の教室参加者の動向

【写真】第 3 回運営委員会(A)



5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称

[くらし&子育て 日本語教室]

(2) 目的・目標

○地域に生活する外国人ママパパが、子育ての言葉を学び、生活の中で遭遇すると思われる日本人との会話を学習する。

○学習をサポートする日本人サポーターと、ともに学ぶことで、地域での仲間作りを図る。

(3) 対象者

地域で生活する外国人ママやパパ

(4) 開催時間数(回数) 48 時間 (全 24 回)

(5) 使用した教材・リソース

クラスレッスン(火曜日) 文化庁カリキュラム案に則って当会で作成したテキスト
マンツーマンレッスン(金曜日) 『外国人ママのための子育て日本語』ヤマガタヤポニカ. 2008

(6) 受講者の総数 8 人

(出身・国籍別内訳 韓国 3人, 中国 3人, 台湾 1人, タイ 1人)

(7) 受講者の募集方法

東根市対象 市報のイベント欄掲載、市内地区公民館にポスター掲示・チラシ配布

全県対象 公益財団法人山形県国際交流協会にポスター掲示・ちらし配布

山形新聞のイベント情報に掲載

近隣の日本語教室、子育てサポートセンターにチラシ郵送

近隣の商業施設のイベント欄に掲示

添付(B)教室募集チラシ

がいこくじん にほんじん あや ちいさのなかつ
外国人も日本人も同じ地域の仲間

こそだて にほんごきょうしつ
くらし&子育て日本語教室

主催：NPO法人 ヤマガタヤポニカ 文化庁「生活者としての外国人」のための教育支援事業
後援：公益財団法人山形県国際交流協会 東根市教育委員会 東根市子育て健康課
東根市あきさば国際交流協会 NPO法人クワイティがね

いまやまがね
今山形で生活している外国人のママパパへ。
一緒に楽しくおしゃべりしながらくらし・子育てについて学びませんか。
同じ地域の日本人が皆さんの日本語のサポートをします。

日時 9月4日(火)～12月14日(火)の火曜日と金曜日 全24回
午前10:00～12:00

場所 東根市タントクルセンター
東根市中央一丁目5番1号 Tel 0237(43)1155
東根公民館
東根市大字東根甲541番地の4 Tel 0237(42)0107

参加者 東根市(山形県内)で生活している外国人ママパパ

参加費 無料(無料託児あり)

お申込 (参加したい方は、FAXが電話で申し込んでください)
お名前 出身国 あ子さんの歳 才・才
住所 ()市・町・村 TEL/FAX 託児の希望 あり なし
NPO法人 ヤマガタヤポニカ TEL 090-2984-1904 FAX 023-686-3004

(8) 日本語教室の具体的内容

参加人数は日本語支援サポーターである日本人を含めて表示

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年9月4日 10:00~12:00	2時間	東根公民館	10人	日本人(5)韓国人(3)中国人(2)	開校式、学習者レベルチェック	開校式にサクランボ国際交流協会会長が挨拶、その後全員が自己紹介、プリントに書き込んだ後、自己実現や将来のことなどを発表しあう。サポーター、学習者とも記録に記入。
2	平成24年9月7日 10:00~12:00	2時間	東根公民館	8人	日本人(4)韓国人(2)中国人(2)	「子育て日本語表現」L1何でも食べよう	前半は『日本語これだけ2』のL4をやったが、簡単だったので、『子育て表現』のL1をペアごと学習した。『始めに』の段階でおしゃべりが長くなってしまい、テキストを進めることができないペアが多かった。
3	平成24年9月11日 10:00~12:00	2時間	タントクル	8人	日本人(5)韓国人(2)中国人(1)	文化庁カリキュラム案第1課健診	東根市報の健診のお知らせで子どもの健診を確認した後、母子手帳の生育欄を日本人サポーターとともに読み合いながら、わからない語彙を調べた。
4	平成24年9月14日 10:00~12:00	2時間	東根公民館	9人	日本人(4)韓国人(2)中国人(2)タイ(1)	「子育て日本語表現」L4かたづけなさい	テキストを『子育て表現』に統一、学習する課も統一した。指導者が何を学習するか教室の始めに話し、その後ペアになり学習した。最後に質問を受けて全体でシェアした。
5	平成24年9月18日 10:00~12:00	2時間	東根公民館	9人	日本人(4)韓国人(3)中国人(2)	文化庁カリキュラム案第2課医療	病気やけがの語彙、体の部位を確認してから病院での会話をサポーター、学習者がペアで練習し、発表。その後問診表の記入を学習した。
6	平成24年9月21日 10:00~12:00	2時間	タントクル	9人	日本人(5)韓国人(2)中国人(2)	「子育て日本語表現」L7お手伝いありがとう	全体で子どものお手伝いについて聞いて、その後ペアで学習した。全体の振り返りの質問を受けて指導者が説明した。
7	平成24年9月25日 10:00~12:00	2時間	タントクル	9人	日本人(5)韓国人(3)中国人(1)	文化庁カリキュラム案第3課交通事故	日本で事故の経験の有無を聞いてから、事故を起こした際の会話練習をペアでした。事故の会話は被害者、加害者など様々なパターンで練習し、事故処理の流れも学習した。
8	平成24年9月28日 10:00~12:00	2時間	タントクル	11人	日本人(6)韓国人(3)中国人(2)	「子育て日本語表現」L12がんばったね	始めにどんな時にどんな言葉で子どもを褒めるかを聞いてから今日のタスクを提示し、ペアごとテキストに取り組む。
9	平成24年10月16日 10:00~12:00	2時間	タントクル	10人	日本人(5)韓国人(3)中国人(2)	文化庁カリキュラム案第4課地震と災害	東北大地震のときの事を全員に聞き、地震の際の携帯の伝言板の使用法を学習した。携帯のエリアメールで様々な災害を調べ、天気予報の警報、注意報の対応の違いを学んだ。

10	平成 24 年10月1 9日 10:00～12:00	2 時 間	東根公 民館	9人	日本人(4)韓国人 (3)中国人(2)	「子育て日本語 表現」L14 怪我し たの？	今回のペアと前回の学習の復習をして始めた。子どもの怪 我について話してからペアごとテキストを学習。最後に子 どもが怪我したときの会話を発表した。
11	平成 24 年10月2 3日 10:00～12:00	2 時 間	東根公 民館	9人	日本人(4)韓国人 (3)中国人(2)	文化庁カリキュラ ム案第5課施設 の利用	前回学習者から質問があった文法について学習してから、 各人がよく利用する施設を発表し、情報交換する会話を練 習した。最後は宿題であった施設の紹介を発表しあった。
12	平成 24 年10月2 6日 10:00～12:00	2 時 間	東根公 民館	10 人	日本人(5)韓国人 (3)中国人(2)	「子育て日本語 表現」L3車に気 をつけて	前回の振り返りをペアでして、指導者が交通規則の話題に 触れてから今日のタスクを提示した。ペアごとテキスト学 習。前回学習者から質問のあった助詞についての文法指 導も行った。
13	平成 24 年10月3 0日 10:00～12:00	2 時 間	東根公 民館	10 人	日本人(4)韓国人 (3)中国人(3)	文化庁カリキュラ ム案第6課就園 と就学	子どもの幼稚園選びのポイントを聞いてから、東根市内の 託児施設のパンフレットを見て、それぞれの料金や保育時 間などの違いを表にまとめて発表した。自宅地図の書き方 や新聞記事への意見は宿題にした。
14	平成 24 年11月2 日 10:00～12:00	2 時 間	タントク ル	10 人	日本人(4)韓国人 (3)中国人(3)	「子育て日本語 表現」L6 不審者 を見たら	ペアごと前回の復習をして、不審者について意見交換し た。その後ペアごとテキスト学習。最後にタスクである文型 を使った文作を発表した。
15	平成 24 年11月6 日 10:00～12:00	2 時 間	タントク ル	11 人	日本人(5)韓国人 (3)中国人(3)	文化庁カリキュラ ム案第7課学校 と給食	給食とお弁当について聞いてから、東根市給食センターの 献立を利用し、食品や栄養素についての語彙を学習した。 その後よく作る料理のレシピを書き、紹介しあった。
16	平成 24 年11月9 日10:00～12: 00	2 時 間	東根公 民館	10 人	日本人(4)韓国人 (3)中国人(3)	「子育て日本語 表現」L8もった いない	ペアごと復習し、『もったいない』と思うことを発表しあう。そ の後ペアごとテキスト学習。最後に会話発表。『ら』抜き言 葉、可能形の形を全体で復習した。
17	平成 24 年11月1 3日 10:00～12:00	2 時 間	タントク ル	11 人	日本人(6)韓国人 (2)中国人(3)	文化庁カリキュラ ム案第8課地域 の社会に参加する	町内会の行事への参加の有無を聞き、近所の人との挨拶、 町内会行事に参加するときの挨拶を標準語や方言で 練習した。公民館のチラシで参加したい催しを選び、その 理由を発表した。
18	平成 24 年11月1 6日 10:00～12:00	2 時 間	タントク ル	11 人	日本人(5)韓国人 (3)中国人(2) 台湾人(1)	「子育て日本語 表現」L11 けんか した？	子どもがけんかしたときの対応を聞きあい、ペアごと復習と テキストの学習。オリジナル会話を記入し、会話発表。
19	平成 24 年11月2 7日 10:00～12:00	2 時 間	東根公 民館	10 人	日本人(4)韓国人 (3)中国人(3)	文化庁カリキュラ ム案第9課ママ 友を作る	ママ友の出会い、会話の内容など聞いてから、モデル会話 で練習した。初めての会話、何度かで愛用になってからの 会話など様々なバージョンで会話を作り発表した。
20	平成 24 年11月3 0日 10:00～12:00	2 時 間	タントク ル	10 人	日本人(4)韓国人 (3)中国人(3)	「子育て日本語 表現」L13 小さい 子には優しくね	兄弟が小さいこの世話をするかどうかを全体に聞いて、ペ アで前回の復習、テキスト学習をした。自由な設定でオリ ジナルの会話を作成してもらい、発表。
21	平成 24 年12月4 日	2 時 間	タントク ル	7人	日本人(3)韓国人 (1)中国人(3)	文化庁カリキュラ ム案第10課食	日本の食事で戸惑った経験を外国人に聞いて、食事の語 彙やテーブルのマナーを確認した。食事をごちそうになっ

	10:00~12:00	間				事のマナー	たときの会話の様々なバージョンをオリジナルで作成し発表した。
22	平成 24 年12月7日 10:00~12:00	2 時 間	タントク ル	12 人	日本人(5)韓国人 (3)中国人(3) 台湾人(1)	「子育て日本語表現」L16おなか が痛いのか？	前回の復習では箸の使い方について離れているペアが多く、その後擬音語擬態語の話を指導者が前振りし、ペアでテキスト学習した。最後にオリジナルな設定で子どもが痛がっているときの会話を作成し、発表。
23	平成 24 年12月1日 10:00~12:00	2 時 間	山形市 防災セ ンター	11 人	日本人(5)韓国人 (3)中国人(3)	見学	現地集合。地震や火事などの体験型施設なので、順次体験した。宿題で質問を書いてきてもらったので、最後に担当者に質問の時間を作ってもらい、回答をメモした。
24	平成 24 年12月1日 3日 10:00~12:00	2 時 間	タントク ル	11 人	日本人(5)韓国人 (3)中国人(3)	閉講式、まとめ	見学のまとめプリントを書いてからそれを発表した。今までの各自の学習記録を見て、まとめのプリントを記入。その後発表した。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

●くらし&子育て日本語教室 報告書

火曜日第2課 医療	2012年9月18日
出席者	
外国人ママ： 5名	日本人サポーター： 4名
10:10 ・ペアを作り、レッスン開始 ① 話しましょう。 ② 病気・怪我の言葉を確認しましょう。 ③ 体の部位を確認しましょう。 Mさんを前に出して部位を説明→ペアで確認 ④ 会話 受付 ペアで音読 ⑤ 問診票記入 ペアで読み合わせて分からない所をなくす ⑥ 質問タイム 11:40 記録用紙に記入→一言感想発表（学習者のみ）	
実施内容・反省など ・車の向きを変えるよう指示があり、車移動、植込み側を前にする10分遅れで開始。 ・Sさん。「ぐずります」「ブツブツがあります」などが分からなかった。UさんやAさんに合わせたスピードで授業をすすめると語彙の質問が多く、時間がかかる。 体の部位説明の時、早すぎてSさんからもっとゆっくり説明してほしいと言われてしまった。 ペアで確認する時間を取ったので、分からない所をサポーターに聞いて記入していた。 ・体の部位ではUさんから普段なかなか聞けない部位に関する質問があった。サポーターに聞いてみると、方言を交えたいろいろな言い方が出た。日本人でも統一された名称はないようだ。 ・問診票の読み合わせでは小児科の二つを大体終えた所で時間切れとなった。 ・中級レベルなので会話練習は無くてもいいと考え、今回は時間を取らなかったが、最終会話を聞くと会話練習が必要だったかもしれない。 ・Iさんは体の部位をよく知っていた。質問も多岐にわたり講師補助とペアを組んでもらい正解だった。片頭痛持	

ち同士で話もあったようだった。 ・記録を記入する時間を 15 分とり、丁寧に書くよう指示した。
申し送りなど ・初めて参加したMさんは子育て終了ママという立場で、ちょっと居心地が悪かったようです。来られるときは来るというスタンスで参加するそうです。

金曜日第4回 2012年9月28日
出席者 外国人ママ 5名 日本人サポーター 5名
・第12課 がんばったね ・全体で、 きょうの課について、最後に会話発表すること。11:30まで学習 ・ペアになって、教材に取り組む 講師、補助は適宜フォローやアドバイスなど 前回とは違う人と、参加者間で調整していた ・全体で ペアで会話発表（11時30分～） SさんとMさん・・・Mさんは子ども役になりきっていた。内容が整っていた。 TさんとAさん・・・Tさんに理解の消化不良が見られ、会話がかみ合わない場面もあったが、Aさんが上手にフォローしていた。 IさんとKさん・・・会話文そのままをなめらかに会話をした。 UさんとYさん・・・オリジナルで発表 EさんとDさん・・・会話発表ではなく、きょう作成した文作を利用したQ&Aを発表 ・学習者に きょう学んだことの発表、個人記録記入 ・今後の予定、次回の連絡
実施内容・反省など ・きょうは隣室で東根市の児童センターの申し込み受付があり、Sさんが15分程度、Oさんが1時間程度遅れた。新しく参加のHさんとSさんがペアになり、そこに講師補助に入ってもらいHさんにやり方を示してもらった。途中からOさんが参加した。 ・きょうは予め12課のトピックを話して、会話発表を11時半にすること、できるペアはトピックに沿った自由な会話を作成することを話して、勉強モードにするよう促した。 ・サポーターは全員テキストに書き込みをしており、予習しているのが確認できた。OさんはMさんと予習して、自分がわからないことを教えてもらっているそうだ。各ペアを回りながら、Lがテキストに文作をきちんと書いているか、サポーターは十分に力が発揮できているか、気をつけてみた。 ・各ペアとも勉強モードになっていた。Dさんは、Eさんの文作を上手にリードしていた。Uさんはおしゃべりが多く、Yさんは圧倒されていた。Iさんは「高をくくる、腹をくくる」の違い、期間の言い方など文法や語彙について聞いていた。ペアのMさんはこういう質問に的確に答えていた。Uさん、Iさんは思うことを話したい、聞いてもらいたいという意識が強い。文作を書き込むようなことはしたくないように見えるが、それが二人の大きな学習ポイントだと言うことをサポーターが気付いたようで、そちらに活動を進めていた。Tさんは語彙、文法でまだ習っていない項目があるようだが、Aさんが丁寧に教えていた。
申し送りなど ・Hさんは不定期だが、できるだけ参加したいとのこと。

- ・ 子どもの就園手続きがこの時期で、参加者は日本人ママも外国人ママもいろいろ悩んでいるようだ。
- ・ 教室がしばらく休みになるので、みんなで連絡を取り合うように促したが、すでに教室終了後お弁当開きなどをして交流している。

添付(写真)



9月4日第1回教室(C)



12月11日山形市防災センター見学(D)

(10) 目標の達成状況・成果

教室設置の目標の一つである「子育ての会話を学ぶ」では、当会のテキスト「外国人ママのための日本語子育て」を使用した。このテキストで重視した子どもをなだめる言い方や褒めて育てるとような言い回しは日本人でもなかなかできないといった感想が日本人サポーターから聞かれた。外国人ママからは怒るときは母語になる、と言った発言もあった。だが、こういう言い回しを知っていることと知らないでいることの違いは理解してもらえたようで、会話の練習は積極的に取り組んでいた。学習者の中にはテキストの母親の子育ての姿勢に納得が行かないとする人もいたが、文法の学習と割り切って学習したと言っていた。

また「生活の中で遭遇すると思われる日本人との会話」では、生活者として地域で暮らす学習者にとって対日本人との会話は日々悩むことが多いようで、ペアを組んだ日本人ママにたくさんの質問をしていた。子育て中のママ同士ということで、リアルな返答をもらえ、役に立ったと感想に書いていた。言葉や語彙を知っていても、場に合った適切な言い回しとなると困難を感じる学習者は多い。母国の体験のまま行動や発言をしてしまい孤立感を深めたという、日本での苦しかった体験を話した学習者はこういう場だからこそ言えたと喜んでくれた。

「子育てママ」という同じ土俵で生活していることは、日本人であれ外国人であれ悩む事柄は同じようなものが多く、共感を生んでいったようで、繋がりが教室を越えて日常にまで進み、育児サークルのように一緒に行動することが多くなっていった。

学習者は一人を除き、就園前の子どもを連れた外国人ママで、また日本人サポーターも同年代の子どもを連れたママが主体で、教室の回を重ねるごとに教室外で、いっしょに遊んだり、家庭を訪問しあったり、と行動を共にすることが増えて、参加者全員の繋がりが密になっていった。行動を共にすることが多くなると必然的に日本語を使った会話が多くなるし、日本人同士の会話に接する時間も多くなる。それによって、言葉以前の、日本人の会話の日本語事情のようなものを学習者が体得していったように思う。会話の間の取り方、うなずき方、発話の始め方など、講師も驚くような進歩を見せてくれた。

教室での学習は徐々に変化が生まれて行った。当初は学習者がサポーターに、自分のできないことは隠す、苦手な、例えば書くタスクはパスし、おしゃべりだけをするというような、学びの体勢になっていない学習者がいた。が、授業記録を回覧することで、講師は学習者と個々に対話を重ね、教室での学びの意義を確認していった。その積み重ねと、サポーターへの信頼度が増すにつれ、「できないことを学ぶ、教えてもらう」と言う学習の姿勢が学習者に確立していった。

10月5日のサポーターのフォローアップ講座ではサポーターの役割を確認し、教室としての枠組みを再構築した。後半になると学習者から日本語文法に関する質問が増えていった。語彙に関しては学習者、サポーターが共に辞書で調べ、サポーターも学習するという展開で進めた。文法面では講師、補助者が指導するという進め方をした。学習者は何らかの方法で日本語教育を受けていた人ばかりなので、その知識があまりないサポーターは学習者の質問に答えられなかった。学習者、サポーターとも次第に金曜日のテキストの予習をするようになって行った。このような学びの姿勢が確立したことで、個々の学習の目的が明確になっていった。

閉講式では、どれだけ自分の能力が伸びたか、自己評価をしてもらい発表した。(添付 F 参照: 閉講式での学習者のまとめプリント) 全員が会話力や漢字、書くということに自信がついたという日本語力の向上を実感する感想を書いた。日本人と会話する機会が地域で生活していても実はあまりない、従来の日本語教室ではテキストによる日本語の学習なので、日本人と様々なトピックで意見交換することはない、だから、この教室で日本人と対等に会話したり、意見交換したりという体験は初めてだった、とても役に立った、と評価した感想が多かった。そして日本人の仲間ができた喜びを全員が書いていた。

教室外活動では10月8日に開催された在住外国人のスピーチコンテストに教室学習者が参加した。学習者、サポーターが全員で応援に駆けつけた。また、東根市給食センターの試食会に参加したりと、次第に教室外活動がダイナミックになっていった。また、外国人ママに声をかけて、学習者を連れてくるなどの積極性が参加者に見られるようになった。12月11日の山形市防災センター見学では、互いに車に乗りあって集合し、見学中は他の人の子どもを見るなど子育てサークルのようなまとまりが育っていった。

11月の火曜日教室で『学校と給食』を学んだ際に、各自のレシピを作った。それをもとに学習者がうちで料理を作ってきた。そして、学習者のうちに集まって料理を教えあうと活動が発展していった。そのような教室外活動を重ねて、『インターナショナルクッキング』という子ども料理教室の第2回講師として教室参加者全員が参加することになった。この料理教室は、後援団体である東根市さくらんぼ国際交流協会が主催するもので12月16日に予定されていた。当初は外国人2名に講師の依頼があったのだが、教室参加者全員が料理教室を担当することに話がまとまった。教室は、全員参加することもあり、サポートすることになった。材料の買出し、料理の下ごしらえから、当日のアトラクションの準備、役割分担などを決め、その相談、練習などで教室外での集まりが増えていった。だが、それにつれ、日本人と外国人の物事の考え方や進め方の違いが露わになっていった。今までの交流にはなかった共生の困難に遭遇し、いらだつ参加者もいた。だが、『料理教室を成功させる』という共通の目標に向かい力を合わせ、最終的には成功裏に終えることができた。外国人、日本人が共に目標に向かって協力するというこの体験で、参加者は共生に伴う痛みを経験し、克服したといえる。

最後に教室の思わぬ効用について述べたい。今回はほぼ全員が8ヶ月～4才までの乳幼児を連れてきた。東根市子育てサポートセンターから保育士を子どもの人数に合わせ斡旋してもらったが、保育担当者の顔ぶれが一定であったことで、一貫した保育体制をとってもらうことができた。就園前の集団保育の準備段階としての機能を果たしたようで、子どももまた仲良くなり、社会性の発達や言葉の発育が顕著に見られた。(教室終了後、保育士へのアンケートを取った。) 同じ顔ぶれの保育士に保育してもらうことで、ママたちは安心して子どもを預けて学習に励むことができた。

ママたちもまたしばしの間子どもから離れ、自分のための学習の時間を持てたことで、子育てとはまた違う喜びを得たという感想を多くもらった。

氏名 岡香玲

11月30日 火曜日

指導者名: 大竹美知子
サポーター名: 鎌川有希

学習テーマ	就園と就学
新しく覚えた言葉	あらなみにこまれる、キキヤとしてる (勝田) 荒波 霧 あさやかがかかる (冬とあさる)
新しく覚えた言い方や文	子どもが「興味をもつもの」をやらせてあげたい。
役立つ情報はありましたか	はい、一日保育場所と夏休みと冬休みに幼稚園で あずかってくれることを知りました。
学習の感想	たくさん情報報告があすことができて、たの しかったです。
サポーターからのコメント	保育園や幼稚園にとっても詳しくて助かりま した。 助詞に気をつけて書いてましたね! Good!! (v)

毎回の学習者の学習記録 (E)

もうとりかど

高橋 梅花

くらし&子育て 東根日本語教室

12月13日(木)

当てはまるもの全てに、○をつけてください。

1. 教室に参加して、あなたの日本語は上手になったと思いますか？

- (○) 発音がきれいになった。
- (○) 日本人と日本語で会話するのが上手になった。
- () 日本語がよく聞き取れるようになった。
- (○) 日本語の文を読むのが上手になった。
- (○) 漢字やカタカナを読んだり書いたりするのが上手になった。
- (○) 日本語のたくさんの言葉を覚えた。
- () 日本語の文を書くのが上手になった。

その他、上手になったと思うことを書いてください。

私は11月から日本語の教室に参加して、時間が短かったですが、よく勉強しました。
漢字や、カタカナを読んだり、言葉を覚えました。今は日本語はまだ上手にならない
ですが、これからがんばります。

2. 教室に参加して、あなたは変わりましたか。

- (○) 日本人とよく話すようになった。
- () 日本人に話しかけるようになった。
- (○) 日本語で自分の意見が言えるようになった。
- (○) みんなの前で意見が言えるようになった。

閉講式の学習者のまとめプリント (F)

(11) 改善点について

広報について

学習者が教室を知った媒体は、子育てのサポート施設や商業施設でのチラシ掲示というのが最も多かった。チラシを見て教室の内容が理解できるという人が学習者として参加したことになる。

学習者4名でスタートしたが、教室参加者が新しい学習者を連れてくるということが何度かあり、それで3名増えた。その3名の学習者には今回の教室情報は届いていなかった。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

『くらし&子育て日本語サポーター養成講座』

(2) 目的・目標

地域に住む外国人ママパパのための日本語教室の日本語サポーターを養成する。サポーターは教室の学習者と会話を重ねることで学習者の日本語力の向上を図る役割を担う。また共に地域に生きる仲間として学習者をバックアップする。

(3) 対象者

地域(東根市周辺)に住む日本人

(4) 開催時間数(回数) 16 時間 (全8回)

(5) 使用した教材・リソース

(6) 受講者の総数 6 人

(出身・国籍別内訳 日本人 6人)

(7) 受講者の募集方法

東根市対象 市報のイベント欄掲載、市内地区公民館にポスター掲示・チラシ配布

全県対象 公益財団法人山形県国際交流協会にポスター掲示・チラシ配布

山形新聞のイベント情報に掲載

近隣の日本語教室、子育てサポートセンターにチラシ郵送

近隣の商業施設のイベント欄に掲示

添付:(G)養成講座募集チラシ

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年8月3日 10:00~12:00	2時間	東根公民館	6人	日本人	県内の外国人事情と日本語サポーターの役割	県内の外国人事業、日本語教室事情を理解し、日本語教育ボランティアではなく日本語サポーターが求められる役割を学ぶ。
2	平成24年8月7日 10:00~12:00	2時間	タントクル	4人	日本人	様々なテキストを見る	日本語教育の様々なテキストを概観し、学習者ニーズにあったテキストを選ぶ。テキストの有無やグループレッスン、個人レッスンの特徴を理解する。
3	平成24年8月10日 10:00~12:00	2時間	タントクル	5人	日本人	日本語文法と文型を見る	『日本語これだけ1』を用い、日本語教育の文法や文型を理解する。
4	平成24年8月21日 10:00~12:00	2時間	タントクル	5人	日本人	『日本語これだけ1,2』の使い方	初級テキストに該当するおしゃべり日本語教育教材を使い、授業のモデルを見て、実際にやってみる。

5	平成24年8月24日 10:00~12:00	2時間	タントクル	4人	日本人	『子育て日本語表現』の使い方	中級テキストに該当する『子育て日本語表現』のモデル授業を見て、実際にやってみる。
6	平成24年8月28日 10:00~12:00	2時間	タントクル	5人	日本人	やさしい日本語	外国人と会話するに当たっての留意点を理解し、日本人母語話者の会話を外国人にわかりやすく話す話し方を学ぶ。
7	平成24年10月5日 10:00~12:00	2時間	東根公民館	5人	日本人	フォローアップ講座1	日本語教室8回を終えて、学習者情報をシェアし、課題や困難点の解決策を検討する。
8	平成24年11月20日 10:00~12:00	2時間	東根公民館	5人	日本人	フォローアップ講座2	日本語教育の文法を学習し、講座終了後に向けての取り組みを考える。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

● 8月21日養成講座(講師用レジュメと報告)

日本語サポート応援団養成講座第4回 『にほんご これだけ! I. II』の使いかた
目標: 会話教材『にほんご これだけ! I. II』の使い方を知る

1. 『にほんご これだけ!』を見る(10:00~10:30)

- ・『にほんご これだけ!』本冊の紹介
「これだけの使い方」P4のレイアウトの説明
「この本について」P6の読み合わせ
「おしゃべりを楽しく続けるためのコツ」P88の読み合わせ
- ・したじきの使い方(かくれ文法)
- ・ホームページ(動画)の紹介

2. デモンストレーション(10:30~10:50)

- ・TとL役のペアで(「1. おなかがすきました」)
- ・観察の仕方…あとでやってみるので、できるように記録(用紙配布)を取りながら観察する
 - 1) 講師が何をしているか(行動、発話、使用しているものなど)
 - 2) 学習者の発話が滞ったり、間違っただけの場合の対応の仕方
 - 3) 学習者とサポーターの発話量のバランス

3. やってみよう(11:00~11:30)

- ・ペアで15分ずつ交代
- ・お互いに興味のあるものを選ぶ(I…「8.すきがいっぱい」「9.げんきですか」「11.なんばいのむことができますか」「15.かいもの」 II…「4.りそうのひと」「5.たのしかったこと/たいへんだったこと」「8.トラブルたいけん」「12.レシピ」「15.わたしのふるさと」)

4. まとめ（11：30～12：00）

- （１）事前の準備は？
- （２）文法知識などについて？
- （３）もっと工夫できそうなところは？
- （４）不安に感じたところは？
- （５）楽しい、面白いと思ったところは？
- （６）「思ったより…」と感じたことは？

くらし&子育て日本語サポーター養成講座 報告書

2012 年 8 月 21 日	
第 4 回	「にほんご これだけ 1.2」の使い方
実施内容・反省など	
・ 5 名の受講 ・ お子さんを託児所に預けていたため、I さん・Y さん・H さんの到着が少し遅れ、5 分くらいからの開始となった。 ・ 初めにこれまでの内容を振り返り、これからの予定と今日の内容を話してから、P4 のにほんご これだけ 1 のレイアウトの説明や、P6、「この本について」の初心者用の部分、P88 の「おしゃべりを楽しく続けるコツ」などを読んでもらいながら進めていった。 ・ デモンストレーションは日本人に外国人になってもらい進めた。韓国人の設定で始めた。途中、「私の知り合いの韓国人の話では…」と話し出す場面が見られたが概ね上手に相手役をしてくれた。 - みなさん熱心にメモを採っていて、特に M さんや O さんは用紙にびっしり書いてあってちょっと意外だった。感想としては、「思ったよりふつうのやりとりで進んで行った。」や「簡単な会話から難しいものに移っていったのがわかった」等が出た。K さんが「自分はただ相手になっていただけなのに、皆さんきちんと観察していたんですね。」と言っていた。 ・ やってみようは、席の並びの通りのペアで行った。1 回目は 3 組とも「すきがいっぱい」を選んだ。M・A 組は初め静かなスタートだったが、好きな歌手の辺りで盛り上がり始めていた。Y・K 組は初めから話が盛り上がっていた。O さんは初めは緊張したようだが後半は話し方がスムーズになっていた。15 分で交代。後半はだいぶ慣れたようで、M・A 組は「りそうのひと」でテキストにある人物像を組み合わせて“～と～とどちらがいいですか」と面白い設定を考えていた。Y・K 組はお酒の話で盛り上がっていた。O さんは講師補助にサポーター役になってもらい買い物のお話でとてもスムーズに進んで行った。 ・ 最後のまとめでは、時間がギリギリになってしまったので、こちらから指名して 1 項目 1 人ずつ答えてもらった。やはりチラシや色があった方がいいという感想や、事前にかくれ文法はチェックしたいと思う、自分の話している日本語が正しいか不安等出たが、概ねやれそうな表情をしていた。	

●第8回(第2回フォローアップ講座)講師用レジュメと報告

日本語子育て応援サポート応援団養成講座フォローアップ講座 第2回 (講師用)

1. 自分の記録を見て、サポーター活動を振り返りましょう。

第1回フォローアップ講座をしました。その後、どのように取り組みましたか。

目的) 記録の振り返りをすることで、教室の意義やサポーターとしての自分の立ち位置を客観視する。それを発表しあうことで、仲間意識を育てる。

発表で出できた問題点を板書し、シェアする。

2. 情報交換

マンツーマン学習では、学習者が支援してほしいことは何か、それに対しサポーターとしてどんな支援ができるかを考えることが大切です。個々の学習者の日本語能力を把握し、どんな支援が必要かを考えましょう。

目的) 全体、個々の学習者レベルを共有し、学習者個人の支援の重点を確認する。

レベルのチェックポイントは 4 技能、語彙習得、発音、文字表記、談話レベル、読解、文章表現などを板書し、確認しあう。

3. こんなときどうする? *具体的にどう対処するか考える

1) 文法や表現の説明に自信がないとき

*本の紹介など *辞書の使い方

2) 「友だち」だから「サポーター」の時に指摘しにくい

3) 会話能力の高い学習者と何を学ぶか、その対応が難しい

*誤用のメモ⇒フィードバック 自覚を促す

4) 支援、指摘、指導?などを学習者から拒まれたとき

*もっとよくなるが、具体的に何ができるようになる。で、どうする?という問いかけ

5) 「学習」に仕立てるための仕掛け⇒ おしゃべりしながら「気づく」こと「学ぶ」こと

4. 自分の日本語を振り返る

*再チェック、内容重視か形式を見るか サポーターの役割再確認

5. 今後の活動について

*今事業のヤポニカのスタンスを話す。これからについて意見交換など

くらし&子育て日本語サポーター養成講座 報告書

2012 年 1 1 月 2 0 日 (木)
フォローアップ講座第2回
実施内容・反省など ・ 5名の受講 ・ 第1回目の振り返りから、どのように取り組んだかなどを尋ねた。日本人外国人を含めて、予習するように

なったこと、学習者に合わせることなど、それなりに意識していることを話した。

- ・学習者個人の情報交換では、3、で取り上げる項目がたくさん含まれていて、つながりがあった。話す事は好きだが書きたがらない、文法事項や学習の形はできているが、なめらかな会話や談話の運びが弱い、経験がないなど、学習者によっての傾向がはっきり見られる報告内容だった。学習者の学習歴や背景などをおおまかにまとめた。

ペアの組み方に偏りがあるような気がする、席を決めるときに迷うなどの意見がおおく、その解決方法として、前回同様に座ってから、日本人がずれて座り、ペアを組んでいくことを次回試してみるようになった。

- ・こんな時どうする では、私の経験や学習者の傾向、対処法などをいろいろと話した。
- ・4では、内容重視か形式重視かで、日本語のコントロールの強弱をつけること、具体的に教科書などのどういう作業や活動で行うかなどを話した。具体的な発話コントロールは時間がなくて出来なかった。
- ・5では、日本人ママたちは育児サークルのような形で続けたいと」漠然と思っているとのこと。こちらの事業実施背景を説明して、このような形では続けられないことを伝えた。外国人ママの意識にも温度差があるようで、もう少し煮詰める必要があります。とにかく12月の料理教室の進め方（先週の打ち合わせなど）で、日本人の前提が通らない、など日本人ママたちが違和感をたくさん感じていたので、どのように進めていったらいいかなどもアドバイスした。TO DO リストを作って、具体的に細かく情報をシェアする、一つ一つ確認するなどもアドバイス。

添付：(I)第2回授業風景(8月7日)



(10) 目標の達成状況・成果

毎回受講記録を書いてもらい、何を学んだか意識づけをした。(J:養成講座受講記録)

教室開始と共に、火曜日のクラスレッスンでは学習者の補助、金曜日のマンツーマンレッスンでは学習者に実際に教えるという実践に入った。8月の座学では基礎的な知識しか学んでいないため、実践では「わからない」「できない」という声が出てくるのが当然予想された。『わからないのは当然、できないのも当然。』と話して、困っているときは、指導者、補助者がサポートする体制を取った。

毎回ペアとなる学習者を換え、終了後には学習者の学習記録にコメントを書き、自分の記録をまとめてもらった。10月5日の第1回フォローアップ講座、第2回のフォローアップ講座では、この記録を振り返りの資料として用い、自己のサポーター活動を客観視し、課題を見つけ出し、次

の活動につなげて行った。フォローアップ講座では学習者の学習記録(毎回コピーしていた)を回覧し、学習者情報をシェアし、課題の共有化を図ることができた。

課題として確認したことを挙げる。第1回フォローアップ講座では教室外活動が盛んになるにつれ仲間意識が醸造された結果、教室内の学びの体勢が取りにくいことが大きな課題になった。第2回フォローアップ講座では、サポーターの日本語教育の文法の知識の欠如が課題の一つとして挙げられた。

実践を通してサポーターを育てていくという方法は、サポーターの自覚を促すという点では非常に有効だった。実践を通し、サポーターは何が課題なのか、絶えず自問させられた。そして毎回教室記録をとることで、フォローアップ講座で何を学べばいいか、明確になったと思われる。フォローアップ講座では互いの記録や学習者記録をシェアすることで、共通認識を持つことができた。

添付： 教室でのサポーター記録(J)

名前 緑川 有希

日時	学習者名	使用テキスト (課)	感想・気づき
10/26	崔雲貞 崔ウンジン	第3課 車夫をつけて	漢字の成り立ち、部首について少し話をし て型「～①ます」の時は「て」になる。 なぜか「か」がつくのか宿題。
10/30	周香玲 周セン	第6課 就園と就学	保育園、幼稚園にとってもわかった。 助詞に注意して書いた。
11/13	富樫エリカ 富樫さん	第8課 地域社会に参加	季節のあいさつ完璧でした。 その季を感じて生活しているの がわかります。
11/16	斎藤あい さん	第11課 いかにした？	「何があったの？」「何があったの？」 の答え方が勉強になった。
11/27	周香玲 周さん	第9課 ママ友を作る	中国と韓国の初対面の時の対応 が違ふことを知った。
11/30	斎藤あい 高橋 梅花さん	小さい子には 優しくね。	2人のレベルが違ふので「一緒に遊ぼう のがいいよ」がよかった。文法の語 彙の難しい。文法の勉強にしよう。

くらし&子育て 東根日本語教室

12月13日

自分の記録を見て、整理しましょう。

1. 養成講座で学んだことが教室でサポーターとして活動するとき役に立ちましたか。

役に立ったこと: やさしい日本語で話す事

・相手に対する尊敬の気持ちを忘れない事

学習者の方々、外国語で生活をしている事だけでも尊敬の気持ちを持ってはいたが、仲良くなるにつれて、人生観や一生懸命さが見えてきて、書ききれない程尊敬しています。^(うなづ)

もっと教えてほしいこと: 発音、表記、文法の教え方

特に文法については学習者の方がずいとい

ので、間違いを指摘する事は出来ても、その後「IGですか?」「他動詞ですか?」「使役形ですか?」...という文法用語での質問に全く答える事ができませんでした。

2. 自分の日本語サポーターとしての活動に満足しましたか。

満足した点:

とにかく仲良くなれた! この教室に参加しなければ皆に会えなかったかと思うと、勇気を出して申し込んだ自分をほめてあげたいと思います。今まで日本人のママ友がいなかった人が殆どだったのを、気軽に話せる日本人の友達という存在になれたのが良かったです。

課題点:

日本語学習という点では、授業中にも「お友達」の感覚から抜け出せずに、間違いを指摘しないう「おしゃべり」に終始してしまった回もありました。

フォローアップ講座の度に反省しましたが、直されませんでした。

3. 日本語サポーターとして教室活動をくり返す中で、学んだことは何ですか。

授業の振り返り、自身の活動を客観的に

見る事が徐々に出来てきた様だ。

(11) 改善点について

①日本語サポーターの位置づけを学習者の会話相手としたが、金曜日で使用したテキスト『子育て表現』の中で、文法を扱っていること、日本語教育の文法を学んできた学習者が相手であることから、養成講座で日本語教育の文法の知識をもっと扱う必要があったのではないかな。

日本人との会話のみで学習者の日本語力向上はありえただろうか、と自問するに、学習者の感想には、日本人との会話でテキスト学習では学べない会話力の向上、自信がついたなどの回答があったことを考えると確かに有効な手段で、必要な日本語教育の一つであることは間違いがない。

だが、学習者の文法的な質問にうろたえ、自信をなくすサポーターを見ると、養成の段階で文法教育にもっと力を入れるべきではなかったかの反省がある。ただ、限られた時間でサポーターを養成することを考えると、サポーターに文法知識の不足が自覚された時点、つまりサポーターとしての実践をある程度踏まえたうえで、フォローアップ講座の中で学ぶ時間を取ったほうがよかったと思われる。

②学習者、サポーターとも就園前の子どもを連れた参加者が教室の主体となったことで、子育てママとしての仲間作りは大きな成果を得た反面、それに該当しない参加者、参加希望者が少なからずいたことが課題である。居場所を見つけられず来なくなった人もいた。だが年輩の方でもサポーターとして力を発揮した参加者もいた。

子育てママを地域でサポーターする人と考えたら、サポーターには年齢、職業など様々な人が参加したほうがいい。だが、それでは、ここまでの教室のまとまりを生み出せただろうか、と考えると一概にも言えない。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

『くらし&子育て 外国人ママの会話集』

(2) 対象

地域で生活する子育て中の外国人ママ

(3) 目的・目標

地域で生活する上で、子育てのママが遭遇すると思われる場面での会話をマスターし、必要な情報を得るために役立つテキストを作成する。

(4) 構成

第1課健診	母子手帳の記入。市報のお知らせから必要な情報を得る。
第2課医療	病気や怪我の語彙、体の部位の語彙を学ぶ。子どもの病気の際の医者との会話を練習する。
第3課交通事故	車の事故を起こした場合の会話(加害者、被害者)の練習。事故処理の流れを知る。
第4課地震と災害	携帯のエリアメールから情報を得る。伝言板の利用の仕方を学ぶ。
第5課施設の利用	近隣の子連れで利用できる施設を知る。互いに情報交換をする。
第6課就園と就学	就園のための知識(園を選ぶ際の必要な情報)を得、手続きに必要な申し込みの書き方を学ぶ。
第7課学校と給食	献立表を見て、子育てに必要な料理の基礎知識を学ぶ。レシピを作り交換する。
第8課地域社会に参加する	地域の自治会に参加したり、近所の人と会話するための言葉を学ぶ。方言を知る。
第9課ママ友を作る	ママ友を作る声かけの会話、親しくなったときの言葉遣いを学ぶ。
第10課食事のマナー	日本の食卓の基礎知識を学ぶ。招待したりされたりする際の会話を学ぶ。

(5) 使い方

東根市に特化したテキストを目指したので、副教材を数多く利用した。副教材は、例えば第7課の場合は東根市給食センターで発行している献立表を利用し、授業ではそこから得られる情報を元に、料理の基本的な知識を学んだ。学習者のレベルが日常生活に不足のない会話ができるくらいの中級だったので、会話の練習ではテキストに書かれたもの以外に、学習者から出てきた『こんな場合は』の会話をできるだけ取り上げた。

(6) 具体的な活用例

以下第7課の教案である。

だい 7 課 学校と給食

- ・ 振りかえり・・・前回の学習記録を見て復習（10分）

① はな 話しましょう・・・導入

- ・ 外国人ママに聞く（子供に作らない人はご主人に作るか、又遊びに行く時等お弁当を持って行くか等）（10分）

② こんだてひょう み 学校の献立表を見ましょう（20分）

- ・ あなたの国/あなたが子供の時の学校のお昼ごはんとは比べてどうですか

（全員に聞く…給食の試食の感想。主食は？朝ごはんは？）

- ・ 給食の言葉・・・語彙学習

③ しょくもつ はたら かくにん 食物のからだの中での働きを確認しましょう（20分）

献立と三大栄養素の働き（資料）を見て働きを確認

- みぎ しょくひん いろ なかま せん むす
右の食品はどの色の仲間ですか。線で結びましょう

④ で アレルギーが出たときは？ アレルギーの情報と経験を聞く（15分）

（会話1）担任と子どものアレルギーについて話す。代入練習して役割練習

⑤ べんとう お弁当の作り方をみましょう（25分）

えら 作ってみたいおかずを選び、作り方を確認しましょう

- ・ お互いのレシピを紹介しあう（準備のない人はこちらで準備したもので言い回しを練習する）（2.3人発表）

（会話2）料理を褒め、レシピを教えてもらう会話の練習

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

地域で子育てする外国人ママパパの子育てを日本語教育に特化して支援する。具体的な目標として日本語教室において外国人ママパパが日本語による子育ての語彙を学び、地域で子育てする仲間作りを目指す。日本語教室の前段階としてそれを支援するサポーターのための日本語サポーター養成講座を行う。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

①日本語教室

1. 子育て中の外国人ママの日本語力向上

毎回学習記録を記入し、ファイルに綴じて行った。その記録を元に、次の回で振り返り学習をした。この積み重ねで、学習者本人、サポーターともども学習の成果を確認できた。開講式で教室で学びたいことを記入し、閉講式で、学習の自己評価をしてもらった。記録をファイルにして綴じることは学習成果の確認として効果が大きかった。

また、学習者がサポーターと会話を重ねることで、日本人特有の間の取り方、談話の仕方など自然に体得できたと思われる。当初は自分を主張することが強かった学習者が、次第に話を聞き、相づちを重ね、その上で自分の考えも言うというような談話構成をとるようになった。

2. 仲間作り

学習者、日本人サポーターともに参加者の主体が就園前の子どもを連れた母親であったことで、教室外活動が活発になり、それがつながりを強くした。最終的に参加者全員で他団体主催の料理教室の講師となり、運営まで引き受け、成功裡に終えることができた。学習者のみならずサポーターの社会参加の一步を踏み出すことができた。

②日本語サポーター養成講座

1. 6回の座学だけで、すぐさまサポーターの実践をするという取り組みは、サポーターになるという心理的障害を軽くして、参加しやすかったと思う。養成講座の受講者がほぼ全員サポーターとして教室に参加した。

2. 養成講座、日本語教室ともども終了後記録を書いてもらい、学習者同様ファイルに綴じさせた。フォローアップ講座で自分の記録を振り返ることで、課題点が意識化された。また、それをコピーし、サポーター同士、指導者間で回覧することで、個人の課題を互いにシェアしあうことができた。

3. 教室開催の中で2回のフォローアップ講座を入れたのは、成果があった。実践を重ねる中で、サポーターの自信喪失、困惑などが出てきたが、それを軌道修正し、必要とされる学びを確認できた。

4. 教室の指導体制を指導者、補助者と2名で組んだことで、サポーター個々の悩みを早い段階で察知し、適切な対応を取ることができた。

③テキスト作成

基本的に自分が作成した課はその人が指導することにしたが、それができない場合もあるの

で、週1回のミーティング、メールでのやり取りを重ね、手直しを入れて完成品を作成していった。その積み重ねで、地域の子育て事情の理解が深まっていた。また、全体の構想、個々の課の作成に全員が関わったことで、問題点も共有することができた。

（3）標準的なカリキュラム案の地域での活用について

外国人が地域で暮らす際に必須なことは日常の情報をどのようにして得られるか、わからないことを相談できる人がいるか、この2点に尽きる。標準的なカリキュラム案の地域版はそれに応えてくれるものが求められる。標準的なテキストではどちらの要求も満たすことはできない。鍵となるのは副教材、リソースの収集である。その副教材を集める過程で、指導者側のテキストに対する理解、地域の学習者が求めるニーズが見えてくる。

日本人ママが欲する情報は、外国人ママも欲している。そのことに気付けば、外国人ママにとって必要な指導は見えてくる。したがって、もう一つの鍵は日本人ママの視点ということになる。教室では、この2つの鍵を満たすような授業展開を心がけた。

（4）地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回の事業では東根市教育委員会、子育て健康課という東根市役所の2つの部署から後援をもらうことができた。後援を受けたことで、この事業は地域の中で認知してもらうことができた。広報などではその力は大きく預かった。施設費の軽減措置も受けることができた。また、NPO法人クリエイティビティがしねからは事業運営に関しての適切なアドバイスをもらうことができた。

東根市という地方自治体につながる道筋は、運営委員になってもらった東根市さくらんぼ国際交流協会の会員のネットワーク力に拠るものが大きい。当会が東根市さくらんぼ国際交流協会と連携を結ぶことができたのは、公益財団法人山形県国際交流協会の交流会が端緒だった。このようなつながりを多く持つことが、事業展開には不可欠であった。

（5）改善点、今後の課題について

今後の課題は広報である。今回の事業に関係した学習者、日本語サポーター、保育者、運営委員からは大きな評価をもらうことができた。当会としても目標とする事業を完遂できたと達成感を持っている。

ただ、今回教室の対象となった外国人子育てママにどのように事業を周知し、参加してもらうかを考えると、効果的な募集方法が見つからない。結果的に口コミが一番有効であったことは、募集方法の再考を促している。東根市で開催したのは、本県の中で人口増加が多く、子育て世帯も多く、外国人の数も多いという立地条件にあったからである。その東根市で開催しても、参加人数をそろえるのは大変であった。